

インフォメーション

登録衛生検査所 臨床 宮崎

TEL0985-52-6688 FAX0985-52-8093

受託再開項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご愛顧を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。

下記項目につきまして、2015 年 2 月より従来試薬の販売中止に伴い RIA 法による検査受託を中断しておりましたが、この度新しい測定試薬が体外診断用医薬品として承認されました。

弊社では下記日程で新試薬による検査受託を再開いたしますので、取り急ぎご案内申し上げます。

先生方には長い間大変ご迷惑をお掛けいたしました。事情をご賢察の上、何卒宜しくご了承の程お願い申し上げます。

謹 白

記

● 受託再開項目:

■ 遊離テストステロン

◆ 受託開始期日:平成 28 年 3 月 31 日(木)受付分より

※詳細につきましては裏面をご参照ください

ご不明な点は弊社担当までお申し付け下さい

■ 遊離テストステロン

下記の検査内容にて平成 28 年 3 月 31 日(木)受付分より、受託を再開させていただきます

◆ 検査内容:

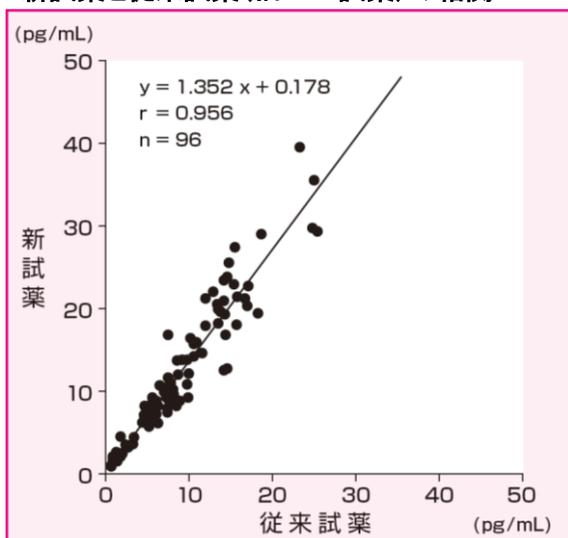
	新	旧
検査項目名	遊離テストステロン	同左
採取容器	分離剤入り採血管	同左
検体必要量	血清 0.3mL	血清 0.4mL
所要日数	4~7日	4~8日
検査方法	RIA・固相法	同左
参考基準値	検査案内参照	同左
単位	pg/mL	同左
報告範囲	0.2 未満~100.0 以上	0.5 以下~50 以上
実施料 / 判断料	166 点/144 点(生化学的検査(Ⅱ))	同左

◆ 検査案内参照/内容:

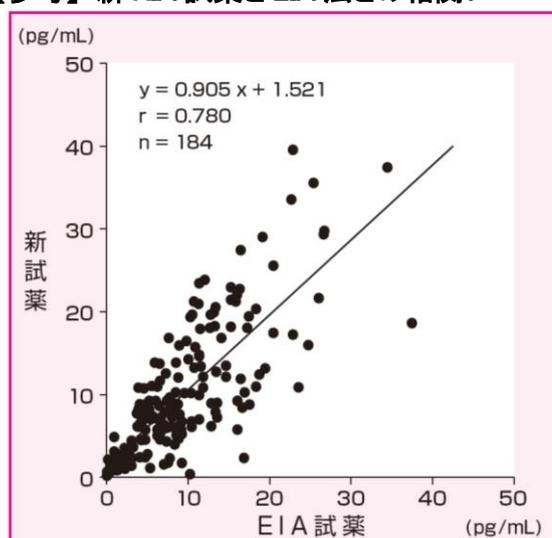
新			従来(2015年2月 中止)		
年齢	男性	女性	年齢	男性	女性
	基準値	基準値		基準値	基準値
20~29	7.6~23.8	0.4~2.3	20~29	8.5~27.9	2.7 以下
30~39	6.5~17.7	0.6~2.5	30~39	7.6~23.1	1.9 以下
40~49	4.7~21.6	0.3~1.8	40~49	7.7~21.6	1.1 以下
50~59	4.6~19.6	0.8~1.7	50~59	6.9~18.4	1.0 以下
60~69	5.3~11.5		60~69	5.4~16.7	未設定
70以上	4.6~16.9		70~79	4.5~13.8	未設定

(単位: pg/mL)

◆ 新試薬と従来試薬(旧 RIA 試薬)の相関:



◆【参考】新 RIA 試薬と EIA 法との相関:



以上

■ 男性更年期の検査（LOH症候群）

女性では閉経による女性ホルモンの急速な低下によって不定愁訴を引き起こす女性更年期障害はよく知られています。一方、男性にも加齢に伴う男性ホルモンの低下によって精神的・身体的に様々な症状を呈することがあり、男性更年期障害といわれています。

現在、日本泌尿器学会・日本 Men's Health 医学会では男性更年期障害を加齢男性性腺機能低下症候群（LOH 症候群）と命名しています。

LOH 症候群の診断には、うつを中心とした精神疾患との鑑別に質問紙による AMS スコアと性腺機能を評価するための内分泌学的検査を行います。

主な男性ホルモンは精巣において産生されるテストステロンです。血中テストステロンは、SHBG 結合型とアルブミン結合型および遊離型の 3 つに分画されます。このうちアルブミン結合型と遊離型は生物学的活性を有するテストステロン (BAT) といわれています。BAT 測定は難しいため、血中における活性型テストステロンとして遊離テストステロンを測定します。総テストステロン値は加齢とともに低下傾向を示しますが、50 歳以降ではほとんど変化がなく一定に推移するのに対し、遊離テストステロン値は加齢とともに有意に減少することから、LOH 症候群の診断基準には遊離テストステロンが採用され、20 歳代の平均値-2SD である 8.5pg/mL を正常下限値としています。

さらに 20 歳代の平均値 (YAM) の 70% 値である 11.8pg/mL 未満までを男性ホルモン低下傾向群とし、治療の対象とされます。診断基準となる遊離テストステロンの測定は日内変動があるため、必ず午前中に採血します。

また、性ホルモンは腫瘍・炎症などの器質的な疾患や加齢、薬物などによって様々な変動を受けるので、原発性性腺機能低下症と続発性機能低下症の鑑別のため LH、FSH、プロラクチンも測定します。

● LOH 症候群の症状および徴候

- 1) リビドー（性欲）と勃起能の質と頻度、とりわけ夜間睡眠時勃起の減退
- 2) 知的活動、認知力、見当識の低下および疲労感、抑うつ、短気などに伴う気分変動
- 3) 睡眠障害
- 4) 筋容量と筋力低下による除脂肪体重の減少
- 5) 内臓脂肪の増加
- 6) 体毛と皮膚の変化
- 7) 骨減少症と骨粗鬆症に伴う骨塩量の低下と骨折のリスク増加

● LOH 症候群の診断のアルゴリズム

